

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 ドリーム	代表者	理事長 金子 敏	法人・ 事業所 の特徴	平成 23 年 3 月に、旧越路町で初めての小規模多機能型居宅介護として、住み慣れた地域で在宅生活をしながら「小規模多機能型居宅介護」の特性である柔軟で臨機応変なサービスを利用できる。家庭的な雰囲気なかで、顔見知りの職員が自宅にも訪問し、使い慣れた環境の施設で通いやお泊りも実施している。 施設の環境として、農村住宅地にあり、事業所の畑もあるのでご利用者・職員とで野菜の収穫などに行きながら、周辺住民の方ともあいさつやお話し合える関係性を築いている。認知症のご利用者・ご家族から、在宅生活に不安を感じられる方も多く、併設の認知症対応型グループホームもあるので、随時相談にのっている。今までに老々世帯のご夫婦を小規模（1階）と、グループホーム（2階）とでご利用いただき、お互いの関係性が保てる支援を行なった。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 あおぞら館	管理者	松崎 あゆみ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2 人	2 人	1 人	2 人	1 人	1 人	人	3 人	人	12 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			自己評価に職員もミーティングに参加しながら話合っている。各職員の自己評価が低いと感じた。	今回の改善計画に対する次回の評価までの期間が短いので、管理者を中心に、計画に対する取り組みを定期的に話し合う場（ミーティング、定例会議など）を設けて次回の自己評価につなげる。
B. 事業所のしつらえ・環境			玄関横に水槽を置いて子供が興味を持って来やすい環境にしている。施設の施錠時間は 20 時～翌朝 7 時になっているが、ご利用者・ご家族の都合に合わせて開閉時間は臨機応変に対応している。事務所に人がいないと、どうしたらいいかわからない。	玄関から事務所のガラス扉にはなるべく貼紙はせず、来客が来てもすぐに対応できるようにする。事務所に職員がいない時は案内看板を設置して、事業所に声を掛けてもらいやすい環境をつくる。
C. 事業所と地域のかかわり			NPO法人ドリーム（以下、当法人とする）として、地域の会議にも参加している。地域に関連施設があるが、散歩されていてもどこのご利用者や職員かまではわからない。	施設職員で認知症サポーターのメイトもいるので、ご利用者やご家族、地域の住民の方を対象に認知症に関する研修を開催し、小規模多機能型居宅介護を知ってもらう機会を次年度の自己評価までに 1 回行う。

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み			施設の中だけでなく、色々な場所に連れて行ってもらってご利用者本人も行く日を楽しみにしている。10月の地域の運動会にご利用者、職員とで参加した。担当者会議で必要な方には、民生委員の方も参加している。	あおぞら新聞や行事のお知らせなどを回覧板で地域住民の方にも施設でどのような事が行われているかを配信していく。今後も民生委員を中心に地域の方と連携を密にするために担当者会議などにも参加してもらう。
E. 運営推進会議を 活かした取組み			会議に参加されている方は、事業所の内容を聞いてもらう場になっていて、あまり具体的な意見はでていない。意見がでないのは、報告の仕方が問題ではないか。	事後報告やヒヤリハット報告の方法や困難事例検討などは行いながらも、地域の心配事などを話せる会議の内容と進め方や、ひとつの議題として話し合う場を管理者を中心に考えていく。
F. 事業所の 防災・災害対策			消防署や地域の方も参加した避難訓練や自主訓練では地震想定も行っていた。防災計画（マニュアル）もあり、利用している本人家族にとっても施設が近くにあることで、何かあったら避難してこれる場所だということがわかってよかった。 中越地震の際の、当法人施設で地域の年寄りを寄せてもらって助かった。	今後も避難訓練を5,10月に開催し、地域の方にも案内を出して参加してもらう。 地域の防災訓練はまだ計画されていないが、開催時には常会長や回覧板より情報を収集し、参加していく。 今後も、地域のなかにある施設としての役割として、災害時に安心して活用してもらえる事業所にしていきながらも、ただ支えてもらうだけでなく、役割やご家族、地域との連携も一緒に考えながら支援していく。